

令和3年度 第1回「長野県公共交通活性化協議会諏訪地域部会」 議事概要

日時 令和4年1月26日(水)

午後1時30分から午後3時15分まで

(web開催)

1 開会

2 小山長野県諏訪地域振興局長あいさつ

今日はこのような形ですがお集まりいただき感謝申し上げます。

本協議会は、県全体で開かれている協議会の地域版にあたるもの。

今後県で計画を策定していくにあたり、今日頂いた御意見を踏まえ、諏訪地域の最適な交通、持続可能な交通のあり方について計画の中に盛り込んで、取組を実施していくもので、本日以降、皆さんから頂戴する御意見が地域交通を考えていく上で、非常に重要な部分になっていくと考えている。

とりわけ諏訪地域は、他の地域より市町村間のつながりが強く、通勤・通学者が管内を横断して往来している。

本日は忌憚のない、より具体的な御意見をいただければと思う。よろしく願いしたい。

3 委員紹介

4 会議事項

(1) 基調講演「地域公共交通の重要性、県の役割、そして本協議会の使命」

(講師 名古屋大学大学院 加藤 博和教授)

令和3年11月16日 令和3年度第1回長野県公共交通活性化協議会での講演の視聴

(2) 長野県の交通政策の現状・課題と今後の取組について(資料2)(企画振興部清水次長)

(3) 事前アンケート(資料3)(諏訪地域振興局企画振興課鮎澤課長補佐)

(4) 意見交換

【岡谷市 秋山委員(代理)】

来年度、再来年度にかけて地域公共交通計画を策定する予定を進めている。来年度は一年かけて市内のフィーダー系統を中心に調査を行う予定で検討している。特にフィーダー系統のバスは乗客が伸びない、少ないという中で、交通空白地区を残さずに維持して行くことが大きな課題。財政状況が厳しい中で、ある程度の財政出動をしていきながら維持していくことを、どこでバランスをとるのが一番の課題かと考えている。諏訪地域部会では広域的な移動、岡谷市ではアルピコ交通運営の岡谷茅野線、スワンバスと財政的な負担をどのようにしていくか研究検討していければと考えている。

【諏訪市 藤森委員】

来年度諏訪市の地域公共交通計画の策定を予定している。かりんちゃんバス・かりんちゃん子バスが市内を走行しているが、コロナ禍ということもあり、利用者が伸び悩んでいる、このことの解析とデマンド交通の将来的な導入の検討を来年度考えている。4月からは、霧ヶ峰周辺、後山周辺のデマンド交通について、形態の変更を令和3年度一年間かけて検討してきたが、いよいよ運行開始する。

諏訪地域において公共交通を広域的に考えていきたいと考えている。

【茅野市 小池委員】

地域公共交通計画に関しては茅野市と原村で一緒に作っていく形になる。令和4年度に準備し、令和5年度に策定と考えている。茅野市では、令和4年度に日中の路線バスを新しい公共交通への移行、デマンド交通を想定し準備している。来年度にはデマンドと朝夕は通学・通勤バスという2本を第一段階ということで現在すすめているところ。交通事業者の補助金関係がかなり増えてくるため、新しい公共交通にして、どうしていくか全庁議論する中で交通事業者さんも含めた中で進めて検討していく段階となっている。

【下諏訪町 中澤委員】

地域公共交通については、スワンバス、アルピコ交通の岡谷茅野線について沿線自治体と協力をしながら施策を進めて行きたいと考えている。地域公共交通計画については、現在協議会がないため、バス検討委員会において今後検討していきたいと考えている。

【富士見町 植松委員】

デマンド交通と学校関係はスクールバス、買い物関係はJAの買物バス、福祉輸送といくつか役割分担をして地域の公共交通を運行している。来年度から新しい交通システムを運行していく検討チームを立ち上げて地域の交通システムを検討していく。この地域部会でお願ひしたいことが一点ある。今後、リニアの山梨駅がおそらく開設され首都圏へ約1時間でアクセスができる環境となると考えている。この山梨駅へのアクセスについても諏訪地域の部会で検討していただければと思う。

【原村 清水委員】

地域公共交通計画は茅野市と策定を進めているところ。村独自ということではないが、令和4年度に新たな公共交通の検討として、デマンド交通等の実証を令和4年度に行う予定になっている。原村は既存集落よりは別荘地域への公共交通を検討していくことが課題。いろいろな課題を令和4年度に整備していきたいと考えている。

【私鉄県連交通政策委員（アルピコ労働組合諏訪バス支部） 濱委員】

従業員、労働者の立場から。県からも各自治体からも日頃よりお世話になっている。コロナ

禍で苦しい中、補助金、補正予算の中でも支援してもらい感謝している。岡谷茅野線では、既存の国道を走っているが、一つ提案としては、鉄道等が並行して走っている中で、途中で経路を変えていく。住民の多いところ、例えば、ステーションパークのあるサンリッツロードを経由するなどいろいろな施策をする中でお客さんに乗っていただくことを考えなければならないと思う。車いすに乗っている方や障がいを持っている方に乗ってもらうには車両の更新や、車いすに対応できるものまたは、そこで安心して乗っていただけるようバス停の整備も今後お願いしていければと考えている

【諏訪地区タクシー乗務員連絡協議会 河村委員】

諏訪市の藤森部会員からも話があったデマンド交通について、事業者としても協力していきたい。

【東日本旅客鉄道(株)上諏訪駅 小林委員】

アンケートに、特急の停車便数が少ないという記載があったが3月12日のダイヤ改正を実施、それぞれの自治体に説明させていただいている。安全を第一に安心してご利用いただける効率的な輸送体制を構築して取り組んでいきたい。

【アルピコ交通(株)中南信支社茅野営業所 斎藤委員】

岡谷茅野線の関係で長野県を始め沿線4市町から支援いただきありがたい。自主努力だけで運行継続できる路線でないのは確かなので、今後支援を継続していただきたい。茅野営業所の路線バスの事業については、来年度茅野市の路線バス再編を含めて変革期に入る状況にある。自主的な運行という部分では、今までは高速バス、貸切バス、関連事業で一般路線バスの赤字を補填してきたが、コロナの関係でこういった事業モデルが崩壊している中で、我々の職場を守る、市民の足を守るという観点からいっても、公共交通のために皆さんの支援がないと成り立たない事業なので支援をお願いしたい。

【ジェイアールバス関東(株)諏訪支店 守屋委員】

スワンバス、岡谷市のシルキーバス、下諏訪町のあざみ号の3つの路線を運行させてもらっている。昨年よりは乗客は戻ってきているがコロナ前には至っていない。行政の支援で何とか運行している。3つの路線を運行する中で予備車を1台持っているが、補助金を使って車両を買う場合、条件をクリアしないと補助金を使えない。もう少し柔軟な対応していただければ、補助金で買うこともできるのではないかと。地域幹線のスワンバスについては、諏訪交通(株)と協力して、営業所でコロナの陽性者が出て封鎖されると、市民の足に影響が出るということで、反対の路線も運行できるような対策を取り、県、市町の理解を得て可能になっていることはありがたいと思っている。コロナ禍において乗客が減少傾向にあり、高速で補填できないというのがバス事業者としては一番厳しいので、その辺を踏まえてより良いものを作っていただければと思う。

【アルピコタクシー(株)諏訪支社 中村委員】

諏訪地域でいえば、茅野市で地域のデマンド交通の運行を計画しているが、茅野市というわけではないが、利用者の利便性を上げれば上げる程、よりタクシーの運行に近い形になってくる。長野県下でもかなりの自治体でデマンド運行がされているが、ある自治体では、地域内であればドアトゥドアでどこへ行っても一乗車 200 円という自治体もある。タクシー事業については国からの許認可をもらい、運賃についても許認可をもらって運行している。ぜひタクシー事業者が共存できる交通システムの構築をお願いしたい。

【諏訪交通(株) 山谷委員】

タクシー事業者は、今、中村部会員がおっしゃられたとおり、公共交通に関しては新参である。今まで選択制の乗り物としてあったが、公共交通だという中で、色々なニーズがあり、そういう形に変わっていったということだと思う。このニーズと法体系が対応していないという実態がある。今、中央でタクシーを公共交通に向けるふさわしい形はということで多数の実証実験を行っている。実証実験を繰り返しながら公共交通として耐えうるように脱皮していくことが狙いであり、国土交通省とタッグを組みながら 12 の新しい形態を模索しているところである。地方の我々としては、その結果を取り入れて、新しい・使いやすい、皆さんの利便性に応えられるようなタクシーを作っていくということを心掛けていきたい。各市町村さんとの連携の中で生き残る道を探していきたい。

【茅野バス観光(株) 小池委員】

通学通勤支援バスについて、JR との接続を考慮し、通学通勤のみに特化すれば、利用者の確保はできるのではないかと。

駅から比較的近い地域での通学通勤バスの問題点として、朝の乗車は多いが夕方の乗車が少なくなることがある。比較的近い地域においては、デマンド方式が良いのではないかと。

人口の少ない地域、過疎化の地域での公共交通はどのように持っていくべきか検討する必要がある。昼間の公共交通については、乗りたいときに利用できるデマンド方式が良いと思われる。理想は、スマホから予約と決算へと進むキャッシュレス化を望むが、高齢者への対応を考えると、電話予約も考えざるを得ない。その場合コールセンターの人件費をどうするか。場所をどこに設置するのかという課題がある。

デマンド交通の一番の問題は、利用方法を高齢者に理解していただけるのにどうすればよいかが大変である。また、デマンド交通にした時のタクシー業界との共存と棲み分けが大事である。

【(有)中央グリーン観光バス 真道委員】

富士見町とデマンドバスを運行させていただいているが、地域貢献等様々なキーワードがある。それらに貢献できるよう対応していきたい。

【諏訪ブロック社会福祉協議会（茅野市社会福祉協議会） 竹内委員】

公共交通は市民の社会参加、外出支援という観点から、とても大切な手段だと思っている。今後施策展開、事業化については市民ニーズを踏まえて、行政や事業主の皆さんと一緒に考え、進めて行きたい。

【国土交通省北陸信越運輸局長野支局 高澤委員】

県の説明や皆さんのお話にもあったが、各地域の課題等ある中で、この地域部会ということですので、来年度各地域（自治体）で個別に作られるものと圏域でのものと共有しながら双方にとっていいものを皆さんで検討させていただければと思う。鉄道・バス・タクシー、その他自家用有償、福祉運送、色々な手段があると思うが、それらを含めて、私どもにも交通に限らず観光、バリアフリー関係など各省庁に支援メニューがあるので、この中で私どもの方から情報提供し、使えるところは使っていきながら進めさせていただければと思う。

5 その他

- (1) 公共交通情報オープン化推進事業について(資料4)（企画振興部交通政策課丸山企画幹）
- (2) 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「まん延防止等重点措置」について
(企画振興部清水次長)

6 閉会